

*Messe Es-Dur,, CANTUS MISSAE “ Opus 109*

ラインベルガー：ミサ 変ホ長調

Kyrie (Moderato) — Gloria (Allegro moderato) — Credo (Moderato)  
— Sanctus (Lento) — Benedictus (Andantino) — Agnus Dei (Lento)

音楽が時間の芸術であるが、より音響効果を駆使した空間の芸術と捉えるならば、この2重合唱のための作品は、本日の聖アンセルモ教会の持っている空間に効果的に響くであろう。その時間ともに繊細に変化する音像、色彩、遠近感、高低感、重力感等は空間の意識なくしては認識が出来ない。この作品が持っている豊かな響き合いの世界を探ってみたい。

① 左右に分かれた合唱団からは、言葉の模倣や応答、掛け合いが随所に聴こえる。同じ言葉を2つの合唱団の間でエコーの様に歌っているが、微妙に音域やハーモニーを変化させているので、響きの質や感触が違う。それによって反響の様子が変わり色彩も変化する。

② 2つの合唱団合わせると8声部になる。そのため各声部のテーマの旋律が時間さで出現する。そして、モザイク模様のステンドグラス様に小さな部分が有機的に絡み合い、神秘的な音空間を創り上げている。

③ 音量の変化により様々な効果を生み出している。例えばピアノ（弱音）からフォルテ（強音）は、闇から光へ、遠景から近景へ、背景から前景へ、中心から周辺の放射、無形の内部から形ある外部表現へ向けて等、テキストの中にある宗教的暗示や印象をRheinbergerは見事に描いている。

## ④ Rheinberger のハーモニーについて

美しく情感があるメロディーが彼の特徴である。ソプラノがそれを鮮やかに空間に響きを立ち上げるために、それを支えている他のパートの音配置に工夫がみられる。例えばアルトとテノール、テノールとバスの音程間隔は接近しすぎないように適度な間隔を保って、ソプラノの背景が分厚く重くならない様にしている。そうすることによりソプラノの音色の彩度が増してくる。

作曲家 Renner(レンナー) が Irmen(イルメン) との間に交わした書簡に、この作品が持つ広い音響空間性がうかがえる記述がある。「この作品は新しい時代の最も優れた8声のミサで、真に宗教的な情感に(教会の中が)満たされ、ラインベルガーの愛情と綿密さで仕上げた壮麗なポリフォニー作品だ。ラインベルガーのアカペラ作品の中で最高峰に位置している」

*(Das Werk, wohl die bedeutendste achtstimmige Messe der neueren Zeit, ist von wahrhaft religiöser Stimmung durchweht, von einer blühenden Polyphonie, mit ersichtlicher Liebe und Sorgfalt gearbeitet und bildet den Höhepunkt unter den a capella geschriebenen Werken Rheinbergers. — J. Renner „Joseph Rheinbergers Messen“ S.25)*